

contents

- ・ 新年のご挨拶
- ・ がん地域連携クリニカルパスの作成
- ・ 地域・行政と新型インフルエンザウイルス対策検討会
- ・ 杉並区医師会と地域連携連絡会を開催
- ・ がんセンター設立記念講演会を開催しました
- ・ 診療科紹介
～泌尿器科・皮膚科・循環器内科～
- ・ 週刊朝日で当院が紹介される
- ・ 医療安全管理セミナーのご案内
- ・ 集中ケア認定看護師研修生募集

【杏林大学医学部付属病院】

〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2

Tel. 0422-47-5511 (代表)

<http://www.kyorin-u.ac.jp/hospital>

新年のご挨拶

病院長 東原 英二

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、地域医療にご尽力をされておられることとお喜び申し上げます。昨年、当院は「がん診療連携拠点病院」に指定を受け、北多摩西部・南部・北部の三医療圏のがん診療を武蔵野赤十字病院と共に推進していくことになりました。

昨年一年間、三鷹市・武蔵野市の医師会と二病院で検討を開始した「がん診療連携パス」等を活用して地域病診連携を更に推進していきたいと考えています。地域住民の高齢化により、2035年にかけて医療需要は増大すると予測されています。この増大する医療需要を、地域の力で共に支える事を目標に杏林大学病院は努力して参ります。

今年が病診連携にとって実りある一年になる事を心より希望しています。

■がん地域連携クリニカルパスの作成

現在、切れ目のないがん医療の提供・患者さんに質の高い医療を効率的に提供することを目的にがんの地域連携パスを作成する活動が武蔵野医師会、三鷹市医師会、武蔵野赤十字病院と杏林大学病院の間で進んでいます。1月19日(月)に三鷹市医師会館で第2回全体会議が行われ胃がん、大腸癌、肝がん、乳がん、肺癌、前立腺癌のグループが昨年からの検討を重ねてきたクリニカルパス案が報告されました。これらの連携パスを平成21年4月1日に運用開始することを目標として、地域の診療所で使いやすい、なるべく平易なパスで、再発の危険の少ない群をまず対象とすることなどを原則として作成が進んでいます。今後、各パスのフォーラムの共通化と内容の修正・変更を加えること、また普及のための説明会を開催し、講演会も企画することなどが検討される予定です。今後、地域の医療連携がこの面でさらに進むことが期待されています。

■地域・行政と

新型インフルエンザウイルス対策検討会

近年問題とされている新型インフルエンザの発生に対し、当院でも東原英二病院長を本部長とする新型インフルエンザ対策本部を発足させました。多摩地区で患者が発生した場合に備えて対応策作りを急ぐことになりその第1回の会議を1月6日(火)に開催し、東京都多摩府中保健所の友松栄二所長や三鷹市健康推進課の内田邦夫課長、三鷹市医師会の角田徹会長など多摩地区の医療や健康を担う行政や医療関係者にも出席いただきました。

この会議では、一般診療の患者への感染を防ぎながら、新型インフルエンザにかかった疑いのある患者を診療するための当院のマニュアルを報告し、これらの診療を効果的に進めるための行政支援の要望を伝えました。また、行政側からも具体的な取組状況についての説明があり、今後、病院・行政・地元医師会が協力しながら万が一に備えていくことを申し合わせました。

そして、病院・行政・地元医師会が加わって、新型インフルエンザの患者が発生したことを想定した合同訓練を3月に行うことになっています。



■杉並区医師会と

地域連携連絡会を開催

昨年11月15日(土)に杉並区医師会と2回目となる地域連携連絡会を開催し、同医師会より26名の先生方が参加され、当院からは関係者33名が出席しました。

はじめに院内施設の見学会が行われ、その後、地域連携連絡会が開かれました。連絡会では、当院の東原英二病院長、杉並区医師会の家田和夫副会長の挨拶のあと、医師会理事の氏家先生に地域連携連絡会の主旨をご説明いただきました。

続いて、当院の各診療科を代表して11名の医師が診療内容のプレゼンテーションを行い、医師会の先生方からは「紹介する際の診療担当医」や「救急診療の依頼」に関する質問を中心に、意見交換を行いました。また、地域連携に関する課題については、引き続き双方が協力して検討を重ねていく事なども確認されました。

■がんセンター設立記念

講演会を開催しました

平成20年4月にがんセンターを開設し、当院ではがんセンター機能の充実を図ったさまざまな取り組みを行って参りました。これまでの活動報告を兼ねて、昨年12月6日(土)に「がんセンター設立記念講演会」を開催し、三鷹市医師会の先生方をはじめ、200名を越す関係者にお集まりいただきました。

講演会では、がんセンター古瀬純司教授が、センターの現状と診療活動について報告したほか、国立がんセンター中央病院の土屋了介病院長から、我が国のがん診療の状況と課題についてご講演いただきました。また、国立がんセンター垣添忠生前総長や三鷹市の清原慶子市長、武蔵野市の邑上守正市長から御挨拶をいただきました。



診療科紹介

■泌尿器科

前立腺がん検診と排尿障害

A. 前立腺癌

1. 前立腺癌検診

三鷹市前立腺癌検診は、平成19年より誕生日検診にPSA測定を組み入れ、受診対象人口あたりの受診者数が大幅に増加しました。現在三鷹市、武蔵野市両医師会と共同作成中の前立腺癌医療連携バスを利用して、今後経過観察が必要な受診者を、地域の先生方と協力してフォローアップしていく予定です。

2. 前立腺癌の患者さんに対して

現在当院では限局性前立腺癌の患者さんに、開腹による根治的前立腺全摘術、腹腔鏡下前立腺全摘術、強度変調放射線治療（IMRT）、密封小線源挿入療法、高密度焦点式超音波療法（HIFU）の5つの治療法を提示・説明しています。患者さんは自分にあった治療法を選択でき、満足度が高くなっています。術後安定した患者さんへは、前立腺癌医療連携バスを利用して、地域の先生方と協力して経過観察を行う予定です。

B. 排尿障害

在宅で介護を受けている方をはじめ、多くの高齢者の方が排尿障害でお悩みです。当科では介護職の方を対象に、特に実践に力を入れた、「第6回三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会」を昨年9月に開催しました。次回は今年の4月25日に武蔵野商工会議所で開催する予定です。

■皮膚科

皮膚悪性腫瘍に対する低侵襲の治療法の紹介

皮膚の悪性腫瘍といえば、観血的治療しか思い浮かばなかったのは既に一昔前のことになっていきます。人口の高齢化とともに皮膚癌は増加しています。しかし、ご高齢の患者さんはいろいろな合併症を持っていることが多く、手術ができない、あるいは希望されないことがよくあります。皮膚科の福田講師が中心となって行っている光線力学療法とは、光に反応し腫瘍細胞にダメージを与える薬剤を外用剤として腫瘍細胞に選択的に取り込ませた後、安全な可視光線を照射して腫瘍細胞を死滅させる、患者さんに極めて侵襲の少ない非観血的腫瘍治療法です。この方法は一般的な手術療法と違い、切るといふ侵襲が全くありません。現在、日光角化症、Bowen病、基底細胞癌と外陰部Paget病の一部にこの方法を行っています。日光角化症、Bowen病の治療成績は特に良く、通常は2〜3回の治療で治すことができます。まだ保険適応でないため自費診療となりますが、費用のことも含め、よく話をした上で、納得された患者さんへの治療を行っています。

■循環器内科

当科は、中央病棟3階と4階に、心臓血管外科と合わせて計70床の病棟と、高度救命救急センター内にCCU、中央病棟1階にICUを有し、急性心筋梗塞や大動脈解離など救急疾患の管理を24時間体制で行っています。

最近では特に、不整脈領域の高度先端診断・治療の提供を心掛けており、近年、循環器領域でクローズアップされている心臓突然死の予知・予防に積極的に取り組んでいます。

その例として、心臓電気生理検査や心室late potentialsなどの従来からの診断法に加えて、近年、有用性が報告されている「wave alternans」やheart rate turbulenceなどの新しい診断装置を備えています。これらの充実した設備から、国内あるいは国外を含めて、心臓突然死の予知に活用されている指標（検査）のうち、当院で施行できないものはないと自負しています。危険な不整脈の発現や心臓突然死の可能性のある患者さんがおられましたらご紹介ください。



中央病棟3階 4人部屋

■集中ケア認定看護師研修生募集

当院の看護・助産実践教育センターは、昨年11月1日付で日本看護協会から集中ケア認定看護師教育機関として認定を受けました。

集中ケア認定看護師とは、ICUやCCUなどに入院する集中ケアが必要な患者さんの看護を行うために、集中ケ

【杏林大学病院】

手術力	A
放射線治療力	B
薬物療法力・入院	A
薬物療法力・外来	A
病床数	1,153
年間新入院患者数	20,156
年間新入院がん患者数	3,549
年間がん入院患者比率	18%
悪性腫瘍手術数	254
悪性腫瘍手術数・指数	0.43
放射線治療患者実数	452
放射線治療患者・指数	0.13
薬物療法症へ患者数	419
入院患者数	419
入院患者・指数	0.71
外来患者数	543
外来患者・指数	0.92

●がん拠点病院編 (2009.1/2-9 合併号)

『全国「がん拠点病院」の実力』の特集で、全国のがん診療連携拠点病院の評価が掲載されました。拠点病院には国が定めた基準を満たす全国351病院が指定されていますが、当院は東京地区の14病院の1つとして紹介され、手術力・薬物療法力（入院）・薬物療法力（外来）の3項目で、「指数」の高い上位3分の1に位置するAランクという高評価を受けました。

週刊朝日で当院が紹介される

●脳動脈瘤編 (12/26号)
「女性のがん・脳と心臓の病気」の特集で、脳動脈瘤開頭手術の項目において当院は全国約2,000病院中、第24位にランクされました。紹介された項目は以下のとおりです。

【杏林大学の脳動脈瘤開頭手術】		
手術数	破裂動脈瘤手術	未破裂動脈瘤手術
88件	56件	32件

■集中ケア認定看護師とは、ICUやCCUなどに入院する集中ケアが必要な患者さんの看護を行うために、集中ケ

アに関する専門知識と高い技術を身につけた看護師の専門資格です。同センターでは、今年9月1日から2月末までの6ヶ月間、集中ケア認定看護師の養成を行います。

入学案内等の詳細は、当院ホームページよりご確認ください。
(担当：看護・助産実践教育研究センター 道又)

